

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価 (3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりの個性・可能性の開発と伸長が図れる教育を実践する。 ○必要な社会実践力を具体化し、それを身につけさせる。 ○学ぶ意欲、学ぶ楽しさを意識した授業改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した分かりやすい授業と学び直しにより、生徒の学習への苦手意識を解消し、学習意欲の向上につなげる。 ・校内研修を実施し、ICT活用の幅を広げることでさらなる授業改善につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTツールを活用し、生徒の理解度を確認しながら学習を進め、TTで行うRT-21や少人数授業を通して、きめ細かな指導を行う。 ・生徒による授業アンケートの結果を活用した授業改善研修を行い、教科ごとに改善点を検討し、さらなる授業改善につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートを通じ、生徒が身についたことやできるようになったことを実感できているか。 ・学習活動の中で生徒の理解度を把握できたか。授業アンケートや振り返りの結果を教材開発に生かすことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの「授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた」の項目で、90%以上の生徒が当てはまると回答した。 ・授業アンケートに「成績の見通しが立てられるような工夫があった」の項目を追加し、90%の生徒が当てはまると回答した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板やICTツールの活用方法を共有し、生徒が取り組みやすく、分かりやすい授業づくりを目指す。 ・現在のカリキュラムを見直し、学校の実態に合わせたカリキュラムの検討やRT-21の学習内容の検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートで肯定的な回答が90%以上であることは素晴らしい。否定的な回答をした生徒へのケアが大切である。 ・RT-21の生徒アンケートについて、内容を一部修正するべきや、2時間中1時間は別の科目の授業を増やすなど、今まで少なかった考えを持つ生徒がいる。検討を継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で身についたことを実感する生徒が多数いる。一方、否定的な回答をする生徒については、生徒の困り感を共有し、その解消に向けた手立てを検討する。 ・RT-21は適切な教材を作成し、使用することができた。多くの生徒が「工夫があった」と回答したことからも成果が表れている。生徒の少数の意見も踏まえながら検討を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの利活用については、新しいツールを1年間使った効果の検証を行い、生徒の学びが深まるよう研究する。 ・RT-21については、カリキュラム検討ワーキンググループで検討を継続する。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○組織的な支援体制により、生徒一人ひとりが落ち着いて学習に取り組める環境を整える。 ○生徒を支援するという視点を持って、生徒指導を進め、学習・生活環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組を通して支援が必要な生徒を見極め、個別の生徒に応じた支援策を検討・共有して支援の充実を図る。 ・校外外において、集団生活を通じて秩序を守り、基本的な生活習慣を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会やコア会議で気になる生徒を共有し、かながわ子どもサポートドック等でさらに支援が必要な生徒を見極め、必要に応じてSC・SSWに繋げる。 ・一斉指導、登下校指導、遅刻指導を中心に規範意識を高めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報を確実に共有したか。かながわ子どもサポートドック等を通じて表面化しにくい困難を発見し、必要な支援をしたか。 ・各指導を通じて生徒の規範意識は高まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週に1回コア会議を行い、各学年会で挙げた生徒について情報共有をした。また、サポートドックを1学期・2学期、学校生活アンケートを3学期に実施した。担任を中心に面談等を行い、学校全体で支援に努めた。 ・職員全員で一斉指導や遅刻指導を行うことができた。また、警察と連携して登下校指導をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートドックや学校生活アンケートも手段の一つであるため、常日頃から生徒の変化やサインに気を配る必要がある。そして、必要に応じてSC・SSW等の教育相談に繋げていく。 ・登下校時のマナーが悪いという苦情が依然として多い。今後も日頃から啓発を図るとともに、警察とも連携して指導を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートドックや学校生活アンケート4月からピックアップされる件数は減少傾向にある。引き続き丁寧な対応をお願いする。 ・本日来校する際、すれ違う生徒が、会釈や挨拶をしてくれた。そのような生徒が多くいることは素晴らしい。自転車の二人乗りや車道を広がって歩く等の行動は問題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コア会議やケース会議で生徒の情報を共有し、生徒の困り感等の改善につなげることができた。生徒個々の詳細な情報を共有できる体制づくりを図る。 ・職員全員で一斉指導や遅刻指導を行うことで、生徒の規範意識を高めることができた。外部機関の協力を得て、指導を充実させることができた。指導の効果が上がらない生徒へのアプローチが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プッシュ型面談を継続し、必要な場合は、SCやSSWにつなげ、生徒が充実した学校生活を送れるよう支援する。 ・日々の声かけや丁寧な支援で生徒とのコミュニケーションを取り、生徒のマナー向上を図る。
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○自立した個人として自己のキャリア意識を高め、社会と関わり貢献でき 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先との円滑な接続を目指し、外部機関との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携事業や体験授業、企業等による職業体験を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部教育資源を活用し、進路先を見据えた進路行事を実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・桜美林大学の高大連携事業「ディスカバ」を継続的かつ効果的に活用し、総合型選抜対策や個人探究活動を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変化する入試制度および高卒求人を取り巻く状況に対応し、今後も進路行事の充実を努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定校の合格者が少ないように見える。校内基準を満たせるよう指導、支援をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部教育資源を活用し、進学希望者、就職希望者ともに、効果的に生徒個々の活動を支援できた。進路未定者への支援の手立てを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変化する入試制度や高卒求人に対応した支援を充実させる。今後も情報収集に努め、生徒の活動を支援する。

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月19日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	る生徒を育成する。 ○進路体験活動及び進路フェアの充実を図る	・進路フェアや進路体験活動を中心とした実践的なプログラムを実施し、自己理解・職業理解を深める。	・進路フェアや進路体験活動をより効果的にするプログラムを構築する。	・進路に関する授業や行事を通じて、生徒の進路意識が向上したか。	・進路フェアでは進路に対する意識が高まったと回答した生徒が多く、特に3年生ではその割合が80%を超えた。また進路体験活動においても生徒の満足度は90%を上回った。	・アンケート結果を踏まえ、進路フェア・進路体験活動を軸としたプログラム構築を引き続き検討する。	・進路状況も良好であると感じる。先生方の非常に手厚い指導はもとより、SCCの力も感じる。	・進路フェアや進路体験活動では、生徒の意識向上に成果をあげた。引き続き、SCCや企業等と連携し生徒の活動を支援する。	・生徒の主体的な取組につながるよう、プログラムの充実を検討する。
4	地域等との協働 ○保護者や地域との協働による学校づくりを推進し、人と社会と未来につながる開かれた学校づくりを推進する。 ○中学生及びその保護者に本校の特色・情報等を効果的に発信する。	・学校行事を中心として、PTAや地域と連携するとともに、地域行事への生徒のボランティア参加を促し協働する。 ・HP、X等で本校の魅力を発信し、学校説明会や個別相談会を充実させ、本校の教育活動を理解してもらう。	・東翼祭や地域貢献デー等を通じ、PTAや地域との連携、生徒のボランティア参加機会を充実させる。 ・全公立展や学校説明会、校外で実施する個別相談会、学校見学などを通じ、本校の魅力を発信する。	・学校行事やボランティア活動等の生徒参加率が増加したか。 ・学校説明会、個別相談会等の参加者へのアンケートにおいて、肯定的な評価率を高めることができたか。	・地域の行事や保育施設などへのボランティア活動に参加した生徒がのべ49人と大幅に増加した。 ・学校説明会、個別相談会には多くの中学生・保護者の参加があり、本校の特色を理解していただき、約90%の肯定的な評価があった。	・ボランティア活動の広報の方法やPTAとの連携の方法等を工夫していきたい。 ・本校Webページのさらなる充実と、中学校への積極的な働きかけを行い、継続して全ての教職員の協力を得ながら、効果的な広報活動を行う。	・ボランティア活動やクリーンチャレンジの取組は素晴らしい。ぜひ継続してほしい。ゼビニボーダーカフェの手伝いを生徒がしてくれている。教員以外の大人との交流の場になっている。 ・クリエイティブスクールの努力は大いに評価できる。クリエイティブスクールの特色をぜひPRしてほしい。	・地域の行事や保育施設などへのボランティア活動に参加した生徒が大幅に増加した。意識向上と活動実績で成果をあげることができた。反面、単位認定の実績は1名であった。単位認定者の増加を目指す。 ・学校説明会、個別相談会で多くの肯定的な評価を得た。今後もクリエイティブスクールの特色をPRしていく。	・ボランティア活動や地域との交流の機会を拡充し、生徒の活躍の場を提供する。 ・Webページのさらなる充実で、本校の魅力を発信する。
5	学校管理 学校運営 ○すべての職員が学校運営の主体としての意識を共有し、一体となって教育活動に取り組む組織づくりを行う。 ○職員の同僚性を高め事故・不祥事ゼロを目指す。	・すべての職員が、生徒の安全、安心を最優先に教育活動を展開し、生徒の学校生活を充実させる。 ・教職員の不祥事防止や働き方改革等について、相互理解を深め風通しのよい職場とする。	・すべての職員が防災行動等について、常に高い意識を持ち、想定外をつくらずに教育活動を計画する。 ・あらゆる機会を捉え、事故・不祥事防止の意識醸成を図るとともに、働き方改革に主体的に取り組む。	・生徒の安全、安心を守り、生徒の主体的な学びを支援することができたか。 ・不祥事防止研修会の充実を図り、事故・不祥事をゼロとしたか。働き方改革に主体的に取り組むことができたか。	・防災訓練を2回実施し、1回目が11分、2回目は10分38秒で避難を完了することができた。 ・2学年では防災をテーマに総合的に探究させ、グループで調査・考察を実施し、防災への意識を高めることができた。 ・あらゆる機会を捉え、事故・不祥事防止について情報共有し、意識の向上を図ることができた。働き方改革においては、ワーキンググループや衛生委員会で検討し、年休取得率が向上した。	・火災発生を想定して、職員による初期消火の方法について、新着任者も含めて再確認する。 ・生徒の主体的な防災、減災活動を検討する。 ・不祥事防止会議や研修会を継続し、引き続き事故・不祥事をゼロとする。また働き方改革においてもアンケート等を実施し、実効性を高めていく。	・過去に、宿泊訓練を実施していた。地域と連携した防災訓練を検討してほしい。 ・大和市主催の避難生活施設運営委員会で、区割り規定の変更にもない、大和東小学校の収容人員が減少した。県の施設として協力いただきたい。 ・引き続き、事故・不祥事防止について引き続き取り組んでほしい。	・防災訓練やテーマ学習で生徒の意識を高めることができた。引き続き、生徒の主体的な学びにつながるよう取り組んでいく。 ・不祥事防止会議や研修会を実施し、生徒に係る事故・不祥事をゼロとした。働き方改革においては、ワーキンググループや衛生委員会で検討し、年休取得率が向上した。	・生徒の安全、安心を守るために、環境を充実させるとともに、様々な機会を捉え、防災、減災を主体的に考えさせる。 ・事故・不祥事防止については、研修会等を継続して実施する。働き方改革においては、時間外在校等時間の削減方法等を検討する。